

<「知るっば!久留米」 令和4年3月10日(木) 12:30~放送分>

鳥類センターの魅力 ～第2回～ 「クジャクのひみつ」

<ゲスト：久留米市鳥類センター 高山しのぶさん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば久留米」ナビゲーターの坂本豊信です!

今月は、久留米市の人気スポット『鳥類センターの魅力』をテーマにお送りしています。

ゲストはこの方です。

ゲスト:高山さん(以下「高山」)

こんにちは!久留米市鳥類センターの高山しのぶです。よろしくお願いします。

坂本 2回目の今回は、鳥類センターの顔でもあるクジャクをテーマに

「クジャクのひみつ」と題してお送りします。

前は、三本松公園にあった久留米市動物園時代からクジャクの繁殖が行われていたお話を伺いました。

鳥類センターとクジャクについて、今回はさらに深掘りして伺っていきます。

確か前回、きっかけは上野動物園からクジャクのつがいが贈られたとお話しされましたね。

高山 前身の久留米市動物園が開園した年に、

ムササビと交換で上野動物園から来園したひとつがいのクジャクがきっかけです。

クジャクを繁殖させて、それを他園の動物と交換して園を充実させてきたんです。

当時、熊本市動物園から招かれた飼育専門家の太田さんの熱意と繁殖技術、

園を立ち上げた有志の方々や市民の支えにより、当初目標の100羽程度から170羽にまで増え、名実ともに日本一になりました。

その後、繁殖、交換、販売を続けながら、開始から9年後の昭和38年に1,000羽を達成しました。

今までに3,000羽のクジャクが、国内各地をはじめ、中国、台湾、韓国などに旅立っているんです!

坂本 1,000羽ですから大したもんですよね。

たくさん増えたクジャクは、鳥類センターでは収まり切れなくなるのかなと思いますが、

どこにいったんですか?

高山 開園後、まずは三本松孔雀園を建設して、放飼場(ほうしじょう)が少し広くなりました。

1,000羽を達成する以前、クジャクが200羽繁殖した年に、

孵化(ふか)、繁殖を行うのに特化した孵化場が野中町の正源寺に新設されました。

なので、あふれることなく収まっていたのではないかと思います。

坂本 凄いミッションですよ。ハリウッド映画の「ジュラシック・パーク」でも繁殖用の島と展示観賞用の島があって、2作目の舞台が繁殖や研究用の島っていう設定でしたよね。鳥類センター凄いですよ。

そういえば、久留米の玄関口であるJR久留米駅のホームにも4羽のクジャクがいましたよね？駅のお出迎え役みたいに改札口の近くにいたんです。

あのクジャクも鳥類センターと関係があるんですか？

高山 そうなんです。密接に関わりがあります。

昭和40年から、九州新幹線開通工事が始まる平成18年まで、およそ40年間、駅のホームに展示されていたんですが、当時小学2年生だった女の子が、こつこつ貯めたお年玉を寄附してくれたことがきっかけでした。

「千羽孔雀」で有名になった頃でしたから、「名物のきれいなクジャクをたくさんの人に見せてあげて欲しい」という思いからだったそうです。

私がJR久留米駅のクジャクの飼育担当をしていた頃は、週に一度、駅までお世話をしに行っていました。

確か、ひとつがいを飼育していたと記憶していますが、やはり「駅のホームにクジャク」という構図は珍しかったのでしょうか。

多くの方が足を止め、ご覧になっていました。テレビの取材を受けたことも鮮明に覚えています。

坂本 立派なお子さんがいらっしゃったんですね。

確か、名物駅長がいて、クジャクたちには「ジャックフォー」というグループ名が付けられていたと記憶しています。

さて、ここからは鳥類センターで暮らしているクジャクのお話を伺います。

クジャクたちは、入場ゲートから右側に行った大きなケージにいますが、今は何羽いるんですか？

高山 鳥類センターのクジャクは現在3種・84羽で、オスが32羽、メスが52羽います。

坂本さん、オスとメスの区別は分かりますか？

坂本 たいていの鳥は、求愛するオスの方が派手なので、クジャクも羽を広げた時に扇子のような美しい飾りがある方がオスでしょう？

高山 そうですね、皆さんもおおよその予想はついていらっしゃると思いますが、オスがメスに自分の美しさをアピールするためです。子孫を残すためですね。

美しい羽根は夏の終わりから抜け始め、新しく生え揃うのが2月頃です。

その頃から羽を広げる姿がぼちぼち見られるようになりますが、最も頻繁に羽を広げるのは春～夏です。

なので、美しいクジャクの姿を堪能するのにお勧めなのは、4月～5月頃ですね。

坂本 クジャクを見るなら春になってから、これからの時期がいいですね。
このほかに、クジャクにまつわるおもしろいお話はありますか？

高山 クジャクは比較的大人しく、どちらかと言うと臆病な性格なので、
人を攻撃してくるようなことはほとんどありません。
ところが、クジャクたちのいるエリアの中では、オス同士の縄張り争いが繰り広げられていて、
時には闘争も起こっているんですよ。
クジャクだけではありませんが、相性の悪い動物同士はエリアを分けるなどの対応が必要なので、
当然ではありますが、飼育員はいつも動物たちの様子に目を光らせています。

坂本 そんなところまで気を配るって、飼育員さんも大変なんですね。

高山 クジャクの中でも、先ほどからお話ししているインドクジャクの変異種であるシロクジャクや、
希少種でもあるマクジャクは、インドクジャクに比べると気性が荒く、
飼育員に攻撃してくることも度々あるんですよ。

坂本 怖いですね。これだけ事前に予習して、予備知識や飼育のエピソードを聞いた上で
クジャクを見ると、より楽しめそうですね。
これからいいシーズンになりますので、皆さんにもぜひ見に行ってもらいたいと思います。
高山さん、今回もありがとうございました。
次回は、さらに飼育の裏話に迫る『飼育員のひみつの話』をテーマにお送りします。
お楽しみに！